

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500572		
法人名	株式会社 サンガジャパン		
事業所名	グループホーム いだか翔裕館 (1階)		
所在地	〒465-0097愛知県名古屋市中区東区平和が丘1-109		
自己評価作成日	令和 3年 1月 5日	評価結果市町村受理日	令和 3年 5月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391500572-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和 3年 2月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

古民家のような温かみのある住まいで会社の理念とする「家族主義」をモットーとし、常に自分の家族と同じように想い、全ての人が最期まで自分らしく生きる喜びや楽しさを感じながら毎日を笑顔で過ごせるよう支援をさせていただいています。
 コロナ禍であり、面会、外出等できない中、室内でできることを計画し楽しんでいただいています。寄り添った介護ができるよう、また各医療と連携を取り安全、安心に生活していただけるよう研修を重ね職員のレベルアップを図っています。建物においては老朽化している所を1年以上かけ順に修繕しています。自治会に加入し、施設PRを行いながら町内の公園清掃などにも参加しています。毎月100件の営業を行い、各区役所・包括へのご挨拶や名古屋市内に施設PRをし各区との交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、緑豊かな丘陵地の閑静な新興住宅地の中に位置している。小学生の通学路や幼稚園バスの集合場所もあり、登下校時には元気な子どもの声や子育て最中の母親や幼子の可愛い会話も聞こえる。自治会に加入し、自治会の掲示板のポスター張り替え作業や春・秋のクリーンキャンペーンに積極的に参加しているがコロナ禍で留まっている。朝の申し送り時に「介護憲章」5か条や「クレド10か条」「GG認知症チェック項目」などを順番を決めて毎日唱和をし、より良いケアを目指して日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。職員と共に掃除をしたり、食事の味見、盛り付けや片付けなど、日常的な家事仕事を自分のペースでゆっくりとして行い喜びを分かち合っている。玄関先で花を眺めたり、子どもたちの行きかう姿を見ながら、日光浴や外気浴を楽しんでいる。明るい居間で、好きな歌を口ずさんだりテレビや新聞を見てのんびりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼で会社の理念「感動介護憲章」と「クレド10か条」「GG認知症チェック項目」を読み上げることで少しずつ浸透しており、職員は利用者様の心に寄り添う介護ができてきている。	玄関に理念を掲示し、朝の申し送り時に「介護憲章」5か条と「クレド10か条」「GG認知症チェック項目」を順番を決めて毎日唱和をしている。職員は理念を基に心をつなげてより良いケアを目指し日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。職員には、理念をわかりやすく解説された日めくり「クレドカレンダー」や携帯用のカードでいつでも確認できるように配布している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。自治会のポスター張替えを担い、自治会活動に参加(利用者様と共に公園掃除)協力している。散歩や朝のごみ捨て時には挨拶をするなど交流するよう心がけている。	自治会に加入し年1回の総会に出席している。コロナ禍で地域行事の中止も多いが、公園清掃の参加や自治会ポスターの掲示をして活動に協力している。入居者と毎日の散歩で挨拶を交わし交流を深めたり、地域に向けてポスティングなどで情報を発信し施設を知ってもらうための努力をしている。また、中学生の福祉体験を受け、高齢者を支える大切さを学ぶ場の提供をしている。	区役所やいきいき支援センターへの施設PRを積極的に行い、各区との交流を深めているが、身近にある地域の福祉会館の行事の把握やコミュニティーセンターなどの情報を収集するなどして入居者が地域の一員として日常的に交流できるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会役員の方や民生委員、地域包括の方にも参加していただき、現状を報告しご理解をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍で他者の参加が行えていないため、社内で行い、そこで出た意見をもとに話し合い、サービス向上に生かせるよう努力している。	新型コロナウイルスの影響で書面での開催ではあるが、年6回開催している。家族、自治会長、民生委員、いきいき支援センターの職員で構成されたメンバーに報告書を持参したり、郵送をしている。事業所の活動報告や事故報告、地域への情報提供などを話題として提供している。いきいき支援センターからは内容の評価を受けるなどして運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の疑問や課題は市や区の健康福祉課に電話し確認や相談をしている。営業時に訪問しご挨拶、施設説明、現状報告などしている。	運営母体の変更に伴い市の健康福祉課の担当職員とは日頃から運営上の疑問や相談などできる関係にある。また、介護保険の更新手続きや申請の代行業務や営業で出向いた折には、事業所の実情や取り組みを伝え情報交換をしながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	令和2年度の身体拘束委員会はR2・4・7・10・R3・1に行い話し合っている。現在は身体拘束を行っている方はいないが、新しい利用者様が入られ落ち着かれない時のみドアの施錠をする場合がある。	3か月に1回委員会を開催し、拘束の対象となる具体的な行為について話し合い、アンケート調査や自己点検シートにより自己を見つめ直し、拘束に対する共通の理解と、意識の統一を図る努力をしている。日常生活では、人としての尊厳を大切に身体拘束やスピーチロックをしないケアに努め、見守りを重視して、自由な生活空間と束縛感のない生活が送れるような環境に配慮している。オンライン動画研修などで年間を通して学ぶ機会がある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法廷研修・メディパス・キャリアパス研修を年間通じて行い参加又は各自パソコン、スマホで視聴してもらい、研修報告書を提出してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者はみえないが、今後、成年後見人制度に関して研修に参加し、職員に周知するようになっていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容変更や解約、料金改定の際はその都度ご入居者様ご家族よりご意見を伺い、理解、納得ができるよう説明させていただいており、書面上で交付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご意見、不満、苦情についてはその都度管理者が直接対応し、ご家族様の対応は電話や面会時などにお時間を作っていただくなどしお話をさせていただいている。それでも解決できないときは上長に相談し運営に反映させている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞き、記録して職員間で共有しケアにつなげている。家族からは、届け物の時や必要に応じて電話で入居者の日々の様子を伝えたり要望等を聞いたりして、運営に反映させるようにしているが、コロナ禍により家族の面会が難しい状況が続いているため入居者の様子が家族に伝わりにくくなっている。	コロナ禍により、面会などの制限があるため、電話連絡だけに留まらず、家族に送付しているお便りなどにコメントや写真などを利用して入居者の日常の様子や職員紹介などを伝えたりして家族に安心を届けられる工夫を期待したい。また、話しやすく相談しやすい関係や信頼感が保てる人的環境も整えていくことを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は随時面談をしたり、声をかけたりし聞くように心掛けている。部会の際、他施設の管理者にも参考になるよう意見を聞くなどしている。	日常の業務の中や朝礼、職員会議では提案や要望など話しやすい雰囲気作りに努めている。新人職員は毎月、他の職員は3か月ごとに管理者作成の「教えて欲しい事アンケート」を参考にして悩みや目標などについて話し合う機会を設け運営に反映させている。また、資格取得や技術の向上に向けてのアドバイス、オンライン動画研修、リモートによる社内研修など、個々の力量に合わせたテーマに沿って学べる環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がマネージャーに現状を報告し、どうしたらより良くなるのかを絶えず話し合い前向きに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法廷研修・自社研修(理念浸透研修・GG認知症研修・メディパス・キャリアパス・ノーリフティング)と現場での技術研修を行いながら、教えて欲しいことのアンケートをもとに職員の悩みを聞いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じサンガジャパンの中では経営会議や部会などで参加し、交流を深めている。同業者においては営業の際施設PRをするなどのお話をさせていただき交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面談、アセスメントは介護支援専門員と管理者が行い、入居前のサービス提供所からも情報を得、本人またご家族からも意向を伺い、ケアプランに反映させ支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談、アセスメントは介護支援専門員や管理者が行い、ご家族から見たご本人のお話や困りごと悩みを伺い、真摯に受け止めご相談させていただいている。その都度電話や面会でも対応させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時本人やご家族が置かれている状況を把握し、ご要望を伺うと共に食事形態、介護サマリーにて状態を把握、福祉用具などの把握、依頼、利用可能な他のサービス(歯科・マッサージ・理美容など)情報の提供などもしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしを共にすることで、家族のような温かい関係を築き、できないことを支援させていただくと共に時間を作りご本人の気持ちを伺い寄り添った介護ができるよう支援支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であり、面会、家族外出等できず不安になられることが多いため、電話や手紙を通じご連絡はさせていただきしている。ご本人に電話をかわりお話をさせていただきようとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、面会が難しく、お電話があった際はご本人に代わりお話していただいている。お手紙を送って下さる方もいる。	フェイスシートから生活歴や馴染みの人、場所を把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。今年度は新型コロナウイルスの影響で家族や友人の訪問を自粛しているが、家族や友人と電話や手紙のやり取りや趣味の習字やお化粧、針仕事など日常生活で、今まで培ってきた経験を生かせる支援に努めている。コロナ禍でなければ、毎月友人と喫茶店に出かけたり、正月に自宅に帰り家族と過ごす等、関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクの際、ストレスにならないように職員が仲介している。複数人でなくフロアの関係性が保てるよう定期的に席替えをしている。合同レクはコロナ対策をした上で、各階、また1・2階の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の家族には可能な限り関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お応えしていただける方にはご本人にお伺いし、すぐに対応できることは実行し、できないことも含めご家族に報告、相談し、必要であればケアプランに生かしている。	入居者の気持ちに寄り添い、日常のさりげない会話、表情など、ケアの中から感じ取ったことは、介護記録や申し送りノートに記録して会議などで話し合い職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情など些細な変化を見逃すことないよう心掛けて思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をしてしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力していただき、過去の生活歴、生活環境が分かるように独自の生活歴シートを用いこれまでの人生やこれからの人生を少しでも理解するために努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護・医療の研修を随時行いながら、毎日の申し送り、バイタル、SPO2等に目を通し、各職員が利用者様の状態を把握している。異変があれば管理者、担当医に報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段ご本人が口にされる言葉などを介護記録、申し送りノートに記入、ご本人、職員からカンファレンス前に聞き取り参考にしそれを生かした計画を立てている。	毎月、個人記録や日誌、申し送りノートを基に計画作成担当者が職員の意見も参考にしながらモニタリングを行っている。3か月に1回短期及び長期の目標の見直しを行い、半年に1回家族や医師、看護師など関係者の意見や意向等踏まえながら、問題や課題について話し合い情報交換をして現状に即した介護計画を作成している。必要に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録記入の際、特記的なことは文字の色を変えて個別記録に記入している。個人記録の一番下の特記記録欄の活用、利用者様の申し送りノートにも記入し情報共有をし、意見も出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時は時間に関わらず、電話相談、臨時往診の依頼などをお願いしている。区や福祉会館、町内行事に参加を予定していたが、現在はコロナ禍で行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気分転換、機能訓練、記憶力低下防止のためなどを兼ねて外食、近くのスーパー、薬局、100円ショップなどへ買い物に行っていたが、現在はコロナ過で外出禁止になり様子見中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問看護、往診にかかりつけ医師と情報交換をし、また電話での相談、必要であれば臨時往診などを行い対応している。急な状態悪化、看取りなどはご家族、医師を交えての話をしている。	入居時にかかりつけ医か提携医か聞いているが往診が受けられる提携医に変更している。内科は月2回の往診が受けられる。また訪問看護師による健康管理は月2回行っている。必要に応じ歯科の治療も受けられる。専門医の受診は家族の協力を得ているが、緊急時は職員で対応している。身体状況に変化があった時や緊急時は、医師や訪問看護師、協力医療機関による24時間連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々気が付いたことがあれば管理者に報告し、訪問看護、24時間訪問看護と連絡が取れるので、看護師から医師に伝え指示を仰いでいる。緊急な時は職員から直接さんクリニックに電話報告し支持を仰ぎ、後で管理者に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時はグループホームでの生活が伝わるよう介護サマリーで情報提供をしている。入院中は電話や面会で連絡を取り、入院先での生活状況、本人の状態把握に努めており、途中での経過や退院前に介護職員にも伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」をもとに家族、主治医と情報交換している。終末期が近くに予測される場合は、ご家族に来所していただき、主治医、ホームの管理者と面談し、対応についての話し合いの場を設けている。	入居時に、重度化した場合や終末期について事業所のできる事の限界を説明し、家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を再確認するとともに、医師や訪問看護師、その他関係機関と話し合いながら入居者にとって最善の援助ができるように努め可能な限り希望に添うよう支援をしている。職員のメンタルケアや看取りについては研修や職員会議の中で話し合いながら日々のケアの大切さを重視して事業所全体で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急対応マニュアル」を各階に用意し熟読。また法廷研修も行い知識を身に付けています。緊急時の対応については、順次DVDを見せる予定。都度そういう事があった時に今回の注意点や次に生かせることを会議時に話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の日中、夜間の避難訓練、地震からの火災などの訓練を行い対策を周知している。訓練に参加できなかった者についてはプリント化し、当日の訓練マニュアルを回覧。会議時に反省会等をしている。ハザードマップで周辺の状況、避難所などの把握もしている。	年2回昼間、夜間の職員体制で、火災や地震など様々な災害を想定した避難訓練を行っている。避難誘導や避難経路の確認などを実施し、問題点は、職員で話し合い改善に努めている。参加できなかった職員には当日の訓練マニュアルを回覧して周知している。また、ハザードマップを利用して地域周辺の把握や避難所の確認もしている。備蓄品は食料や水、毛布や懐中電灯など3日分用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の個人の尊厳、プライバシー保護のため、排便や失禁時の対応は他者の前で話さず、小さな声で対応するようにし、尊厳、プライバシー保護については法定研修で行い、欠席者にはコピーを渡し読んでもらっている。	人生の先輩として、これまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなどお互いチェックし合える職員の関係づくりや入居者の個性や人格などを考慮した支援に努めている。職員は、社内の研修計画に組み込まれている尊厳やプライバシー、接遇などの研修については必須受講として、ケアに活かすように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事、散歩、貼り絵、歌などをレクは選択。コロナ禍で買い物や外出はできていない。着替えは自分で選んでいただく。入浴の拒否は他の方と交替している。できる限り本人に選択できる環境を作り自由選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを、なるべく自分のペースで過ごせるように見守っている。昼寝をしたい方はしていただき、夕食後の過ごし方は自由で21時以降は居室で自由行動、就寝時間も自由にいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、髪をとく、ひげを剃るなど介助し、自分でお化粧水などつけたり、お化粧されている方もいる。服は何枚も重ね着しないよう注意はしているが、自分の好きな服を着ていただいている。購入はご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、食器拭きは振り分けてできる方と職員で行っている。日頃は栄養バランスの良いワンクック食材を利用し、新年から季節の料理(鍋など)やおやつ作りなど提供できたらと考えている。音楽を流しゆっくり召し上がっていただいている。	栄養バランスの良い食材業者から購入しているが、ご飯と味噌汁は、事業所で調理している。献立には行事食の提供もあり季節感を味わう事ができる。盛り付けや準備や後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒にしている。おやつ作りでホットケーキや鬼まんじゅう作りなどをして食事の関心が高まるよう工夫をしている。コロナが落ち着いた折には外食も予定している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000ml以上の水分を摂取していただけるよう支援をしている。積極的に摂取されない利用者様にはトロミ材を使用したり、ほかの飲み物に変える、介助者を変える、時間をずらすなど水分が不足しないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできない方には職員が介助し行っている。口腔ケアスポンジなどの使用もし介助している。自立でしている方は毎回確認できていない方もいる。歯医者は希望者のみ。痛みとかあれば家族に相談し受診する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立以外の方はある程度の排泄パターンで声かけをし尿意があるか伺いながら誘導している。夜間においては尿量と睡眠時間に配慮し時間で交換している。	排泄パターンを把握し一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切にしている。夜間のみポータブルを利用して安心できる環境を整え、丁寧な見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行っている。自力歩行の方はできるだけ散歩にお誘いし、水分摂取を多く取り、お腹を温める、マッサージなどの介助をしている。便秘がちな方は医師の指示により便秘薬を服用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回実施している。利用者様に負担がないよう湯船につかる時間なども考慮している。多量の便失禁などがあった場合は都度洗うなどしている。	入浴は週2回を目安に行っているが、希望があればいつでも入浴できる。浴室のリニューアルに伴い座位入浴が可能な特殊浴槽を設置しリフト浴で介護度の高い方もたっぷりのお湯につかって温まることができる。冬季は暖房機を利用してヒートショックに配慮し、ゆず湯や菖蒲湯などで季節を味わっている。入浴を拒む方には声掛けやタイミングを見計らい気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様本人の体力・体調・希望時間などを考慮し、入眠していただいている。安眠できるよう日中身体を動かしていただく。シーツや枕カバーを月2回、パット月1回、包布月1回交換し、換気をするなどし気持ちよく休めるよう衛生の保持をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医の指示に従い服薬を実施。薬の変更、頓服薬は申し送りノートに記入し、職員が把握している。職員の気づき、日頃の変化は往診時に伝え随時薬の見直しも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯・食器洗い・盛り付け・おやつ作りなど)や散歩・貼り絵・工作・習字・花の手入れなどご利用者が好まれること用意し職員も一緒に楽しみ、利用者様の笑顔を増やすよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍であり、できる限り散歩・日向ぼっこなどを実施し、外気に触れていただいたりストレス発散をしていただいている。近所の方には散歩のときにご挨拶させていただいている。今年は非常事態によりご家族との面会や外出なども含め全て自粛になっている。	お天気の良い日には散歩や買い物に出かけられる環境にあり、テラスで日光浴やプランターの水やりなど外気に触れる機会を大事にしている。コロナウイルス感染予防のため現状ではスーパーや薬局、季節の花見など自粛しているが、今後、中庭の整備や今までは違う形でのお花見や外出の工夫をしたり、安心して出掛けられるようになれば、今まで通り外食や家族の協力を得てお墓参りなどの支援をしていく予定にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物には行けないが、欲しいものや足りないものがあればご家族様へお願いするか、施設で立て替えて行っている。以前は施設のお金でお支払いをしていただいたりしていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望があれば、ご家族と相談し、許される範囲で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消臭剤の使用、汚物は必ず新聞紙で包み衛生面に配慮している。室内は明るく楽しくなるよう季節に応じた飾り物や絵、作品を飾ったり、思いのある写真や家具、個人の大切にされていた物などを持ってきていただいている。中庭はまだ手入れできていない。	和風で落ち着いた暖かい雰囲気のある共用空間で中庭の掃き出し窓からは自然光が差し、風通しの良い食堂と居間がワンフロアの共有スペースで、壁面には、額に入った絵画を飾り足を止め目からも楽しめる落ち着いた大人の空間となっている。入居者はソファに腰かけて音楽やテレビを観たりして、のんびり過ごしている。余暇の時間には、読書や書道、お花を生けたり、入居者一人ひとりに合わせた居心地のよい環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お昼寝などは自由にしていただいている。仲の良い利用者様に関してはお互いの居室への出入りは自由に行っている。話題になるように作品を飾ったり、ご家族の写真を持ってきていただいたりしている。時には居室でお茶の時間も提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、ご本人が必要と思われるものはなるべく持ってきていただいている。ご本人、ご家族の写真や使い慣れた傘やハンカチ、帽子や服、本人が使用されていた調度品などはできるだけ家から持ってきていただくようお願いしている。	障子からやさしい外光が差し込む純和風の居室となっている。居室には洗面台が備え付けられ、朝の身支度ができる。入居者が、自宅で使用していた家具や生活用品を持ち込み心地よく過ごせる環境を整えたり、家族の写真や愛着のある小物を飾って自分らしく過ごせるよう工夫をしている。乾燥時には濡れタオルや桶に水張る等、室内環境に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー(一部床暖房)居室や風呂場、トイレの表示等をし、見当識障害、転倒などを招かないよう安全に暮らせるよう環境整備に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500572		
法人名	株式会社 サンガジャパン		
事業所名	グループホーム いだか翔裕館 (2階)		
所在地	〒465-0097愛知県名古屋市中東区平和が丘1-109		
自己評価作成日	令和 3年 1月 5日	評価結果市町村受理日	令和 3年 5月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2391500572-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和 3年 2月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

古民家のような温かみのある住まいで会社の理念とする「家族主義」をモットーとし、常に自分の家族と同じように想い、全ての人が最期まで自分らしく生きる喜びや楽しさを感じながら毎日を笑顔で過ごせるよう支援をさせていただいています。

コロナ禍であり、面会、外出等できない中、室内でできることを計画し楽しんでいただいています。寄り添った介護ができるよう、また各医療と連携を取り安全、安心に生活していただけるよう研修を重ね職員のレベルアップを図っています。建物においては老朽化している所を1年以上かけ順に修繕しています。自治会に加入し、施設PRを行いながら町内の公園清掃などにも参加しています。毎月100件の営業を行い、各区役所・包括へのご挨拶や名古屋市内に施設PRをし各区との交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、緑豊かな丘陵地の閑静な新興住宅地の中に位置している。小学生の通学路や幼稚園バスの集合場所もあり、登下校時には元気な子どもの声や子育て最中の母親や幼子の可愛い会話も聞こえる。自治会に加入し、自治会の掲示板のポスター張り替え作業や春・秋のクリーンキャンペーンに積極的に参加しているがコロナ禍で留まっている。朝の申し送り時に「介護憲章」5か条や「クレド」10か条、「GG認知症チェック項目」などを順番を決めて毎日唱和をし、より良いケアを目指して日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。職員と共に掃除をしたり、食事の味見、盛り付けや片付けなど、日常的な家事仕事を自分のペースでゆっくりとして行い喜びを分かち合っている。玄関先で花を眺めたり、子どもたちの行きかう姿を見ながら、日光浴や外気浴を楽しんでいる。明るい居間で、好きな歌を口ずさんだりテレビや新聞を見てのんびりと過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼で会社の理念「感動介護憲章」と「クレド10か条」「GG認知症チェック項目」を読み上げることで少しずつ浸透しており、職員は利用者様の心に寄り添う介護ができてきている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。自治会のポスター張替えを担い、自治会活動に参加(利用者様と共に公園掃除)協力している。散歩や朝のごみ捨て時には挨拶をするなど交流するよう心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会役員の方や民生委員、地域包括の方にも参加していただき、現状を報告しご理解をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍で他者の参加が行えていないため、社内で行い、そこで出た意見をもとに話し合い、サービス向上に生かせるよう努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の疑問や課題は市や区健康福祉課に電話し確認や相談をしている。営業時に訪問しご挨拶、施設説明、現状報告などしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	令和2年度の身体拘束委員会はR2・4・7・10・R3・1に行い話し合っている。現在は身体拘束を行っている方はいないが、新しい利用者様が入られ落ち着かれない時のみドアの施錠をする場合がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法廷研修・メディパス・キャリアパス研修を年間通じて行い参加又は各自パソコン、スマホで視聴してもらい、研修報告書を提出してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者はみえないが、今後、成年後見人制度に関して研修に参加し、職員に周知するようしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容変更や解約、料金改定の際はその都度ご入居者様ご家族よりご意見を伺い、理解、納得ができるよう説明させていただいており、書面上で交付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様のご意見、不満、苦情についてはその都度管理者が直接対応し、ご家族様の対応は電話や面会時などにお時間を作っていただくなどしお話をさせていただいている。それでも解決できないときは上長に相談し運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は随時面談をしたり、声をかけたりし聞くように心掛けている。部会の際、他施設の管理者にも参考になるよう意見を聞くなどしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者がマネージャーに現状を報告し、どうしたらより良くなるのかを絶えず話し合い前向きに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法廷研修・自社研修(理念浸透研修・GG認知症研修・メディパス・キャリアパス・ノーリフティング)と現場での技術研修を行いながら、教えて欲しいことのアンケートをもとに職員の悩みを聞いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じサンガジャパンの中では経営会議や部会などで参加し、交流を深めている。同業者においては営業の際施設PRをするなどのお話をさせていただき交流をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面談、アセスメントは介護支援専門員と管理者が行い、入居前のサービス提供所からも情報を得、本人またご家族からも意向を伺い、ケアプランに反映させ支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談、アセスメントは介護支援専門員や管理者が行い、ご家族から見たご本人のお話や困りごと悩みを伺い、真摯に受け止めご相談させていただいている。その都度電話や面会でも対応させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込み時本人やご家族が置かれている状況を把握し、ご要望を伺うと共に食事形態、介護サマリーにて状態を把握、福祉用具などの把握、依頼、利用可能な他のサービス(歯科・マッサージ・理美容など)情報の提供などもしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の暮らしを共にすることで、家族のような温かい関係を築き、できないことを支援させていただくと共に時間を作りご本人の気持ちを伺い寄り添った介護ができるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍であり、面会、家族外出等できず不安になられることが多いため、電話や手紙を通じご連絡はさせていただきしている。ご本人に電話をかわりお話をさせていただきようとしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、面会が難しく、お電話があった際はご本人に代わりお話しさせていただいている。お手紙を送って下さる方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクの際、ストレスにならないように職員が仲介している。複数人でなくフロアの関係性が保てるよう定期的に席替えをしている。合同レクはコロナ対策をした上で、各階、また1・2階の交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の家族には可能な限り関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お応えしていただける方にはご本人にお伺いし、すぐに対応できることは実行し、できないことも含めご家族に報告、相談し、必要であればケアプランに生かしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にも協力していただき、過去の生活歴、生活環境が分かるように独自の生活歴シートを用いこれまでの人生やこれからの人生を少しでも理解するために努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護・医療の研修を随時行いながら、毎日の申し送り、バイタル、SPO2等に目を通し、各職員が利用者様の状態を把握している。異変があれば管理者、担当医に報告している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段ご本人が口にされる言葉などを介護記録、申し送りノートに記入、ご本人、職員からカンファレンス前に聞き取り参考にしそれを生かした計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録記入の際、特記的なことは文字の色を変えて個別記録に記入している。個人記録の一番下の特記記録欄の活用、利用者様の申し送りノートにも記入し情報共有をし、意見も出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時は時間に関わらず、電話相談、臨時往診の依頼などをお願いしている。区や福祉会館、町内行事に参加を予定していたが、現在はコロナ禍で行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気分転換、機能訓練、記憶力低下防止のためなどを兼ねて外食、近くのスーパー、薬局、100円ショップなどへ買い物に行っていたが、現在はコロナ過で外出禁止になり様子見中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問看護、往診にかかりつけ医師と情報交換をし、また電話での相談、必要であれば臨時往診などを行い対応している。急な状態悪化、看取りなどはご家族、医師を交えての話をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々気が付いたことがあれば管理者に報告し、訪問看護、24時間訪問看護と連絡が取れるので、看護師から医師に伝え指示を仰いでいる。緊急な時は職員から直接さんクリニックに電話報告し支持を仰ぎ、後で管理者に報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所時はグループホームでの生活が伝わるよう介護サマリーで情報提供をしている。入院中は電話や面会で連絡を取り、入院先での生活状況、本人の状態把握に努めており、途中での経過や退院前に介護職員にも伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」をもとに家族、主治医と情報交換している。終末期が近くに予測される場合は、ご家族に来所していただき、主治医、ホームの管理者と面談し、対応についての話し合いの場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急対応マニュアル」を各階に用意し熟読。また法廷研修も行い知識を身に付けています。緊急時の対応については、順次DVDを見せる予定。都度そういう事があった時に今回の注意点や次に生かせることを会議時に話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の日中、夜間の避難訓練、地震からの火災などの訓練を行い対策を周知している。訓練に参加できなかった者についてはプリント化し、当日の訓練マニュアルを回覧。会議時に反省会等をしている。ハザードマップで周辺の状況、避難所などの把握もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の個人の尊厳、プライバシー保護のため、排便や失禁時の対応は他者の前で話さず、小さな声で対応するようにし、尊厳、プライバシー保護については法定研修で行い、欠席者にはコピーを渡し読んでもらっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事、散歩、貼り絵、歌などをレクは選択。コロナ禍で買い物や外出はできていない。着替えは自分で選んでいただく。入浴の拒否は他の方と交替している。できる限り本人に選択できる環境を作り自由選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを、なるべく自分のペースで過ごせるように見守っている。昼寝をしたい方はしていただき、夕食後の過ごし方は自由で21時以降は居室で自由行動、就寝時間も自由にいただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、髪をとく、ひげを剃るなど介助し、自分でお化粧水などつけたり、お化粧されている方もいる。服は何枚も重ね着しないよう注意はしているが、自分の好きな服を着ていただいている。購入はご家族にお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食器洗い、食器拭きは振り分けてできる方と職員で行っている。日頃は栄養バランスの良いワンクック食材を利用し、新年から季節の料理(鍋など)やおやつ作りなど提供できたらと考えている。音楽を流しゆっくり召し上がっていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1000ml以上の菓分を摂取していただけるよう支援をしている。積極的に摂取されない利用者様にはトロミ材を使用し、ほかの飲み物に変える、介助者を変える、時間をずらすなど水分が不足しないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできない方には職員が介助し行っている。口腔ケアスポンジなどの使用もし介助している。自立でしている方は毎回確認できていない方もいる。歯医者は希望者のみ。痛みとかあれば家族に相談し受診する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立以外の方はある程度の排泄パターンで声かけをし尿意があるか伺いながら誘導している。夜間においては尿量と睡眠時間に配慮し時間で交換している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行っている。自力歩行の方はできるだけ散歩にお誘いし、水分摂取を多く取り、お腹を温める、マッサージなどの介助をしている。便秘がちな方は医師の指示により便秘薬を服用していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回実施している。利用者様に負担がないよう湯船につかる時間なども考慮している。多量の便失禁などがあった場合は都度洗うなどしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様本人の体力・体調・希望時間などを考慮し、入眠していただいている。安眠できるよう日中身体を動かしていただく。シーツや枕カバーを月2回、パット月1回、包布月1回交換し、換気をするなどし気持ちよく休めるよう衛生の保持をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医の指示に従い服薬を実施。薬の変更、頓服薬は申し送りノートに記入し、職員が把握している。職員の気づき、日頃の変化は往診時に伝え随時薬の見直しも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯・食器洗い・盛り付け・おやつ作りなど)や散歩・貼り絵・工作・習字・花の手入れなどご利用者が好まれること用意し職員も一緒に楽しみ、利用者様の笑顔を増やすよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍であり、できる限り散歩・日向ぼっこなどを実施し、外気に触れていただいたりストレス発散をしていただいている。近所の方には散歩のときにご挨拶させていただいている。今年は非常事態によりご家族との面会や外出なども含め全て自粛になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で買い物には行けないが、欲しいものや足りないものがあればご家族様へお願いするか、施設で立て替えて行っている。以前は施設のお金でお支払いをしていただいたりしていた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人やご家族の希望があれば、ご家族と相談し、許される範囲で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	消臭剤の使用、汚物は必ず新聞紙で包み衛生面に配慮している。室内は明るく楽しくなるよう季節に応じた飾り物や絵、作品を飾ったり、思いのある写真や家具、個人の大切にされていた物などを持ってきていただいている。中庭はまだ手入れできていない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お昼寝などは自由にいただいている。仲の良い利用者様に関してはお互いの居室への出入りは自由にしている。話題になるように作品を飾ったり、ご家族の写真を持ってきていただいたりしている。時には居室でお茶の時間も提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、ご本人が必要と思われるものはなるべく持ってきていただいている。ご本人、ご家族の写真や使い慣れた櫛やハンカチ、帽子や服、本人が使用されていた調度品などはできるだけ家から持ってきていただくようお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリー(一部床暖房)居室や風呂場、トイレの表示等をし、見当識障害、転倒などを招かないよう安全に暮らせるよう環境整備に努めている。		